

緑の基金

37

2021
October



公益財団法人 長野県緑の基金

公益財団法人 長野県緑の基金

基本財産の運用

で行う事業

当基金は、
長野県が緑
あふれる豊かな県
として発展することを願う
県民の皆様からいただいた
基本財産の運用益などを
活用し、健全な森林づくりと
緑化推進活動を展開しています。

緑の募金

で行う事業

当基金は、「緑の募金による
森林整備等の推進に関する法律」に基づき、
「緑の募金による寄附金を用いて緑の募金及び緑の
募金による寄附金の管理などの業務を行う者」として
長野県知事から指定を受けた県内唯一の団体です。
身近な緑化活動や森林整備、森林ボランティア団体
等を対象とする公募事業、みどりの少年団の
育成などの人づくりを推進しています。



■ (公財) 長野県緑の基金の基本財産と緑の募金額

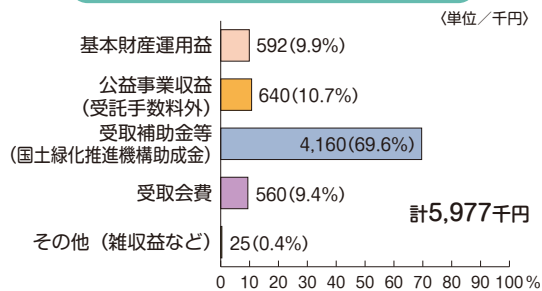
基本財産

(令和3年3月末現在)

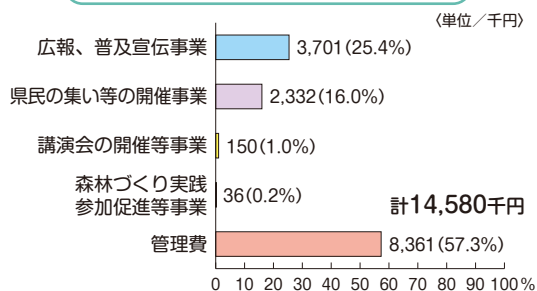
約5億8,986万円

基本財産(出えん金)の内訳 ● 長野県15,000万円 ● 市町村12,300万円
● 民間(企業・個人)31,686万円

令和2年度緑の基金収入



令和2年度緑の基金支出



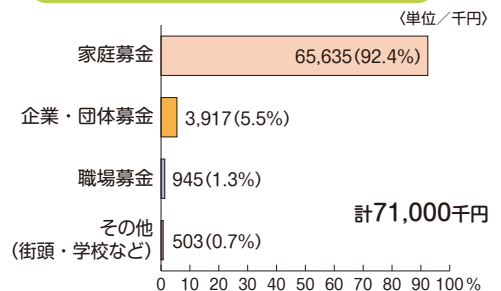
緑の募金額

(令和2年)

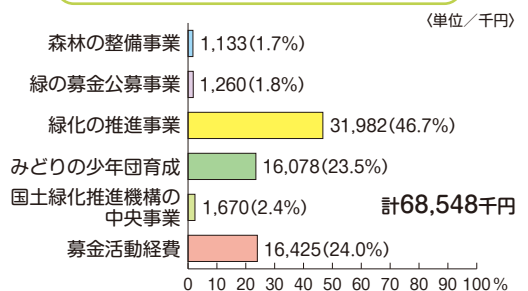
約7,100万円

※募金使途合計額が募金実績額に一致していないのは、コロナ感染拡大防止のため、予定していた事業が中止・縮小となったため。

令和2年度緑の募金実績



令和2年度緑の募金使途





森林・林業の啓発と緑化事業



「木が伝えてくれる物語」絵本 最新刊のご紹介

「森のくまさん」

第3弾！

南信州へゆく

南信州の大自然の中で出会ったものは…



表紙より 2021年3月25日初版

森のくまさんと
子どもたちの声が南信州の
大自然の中から聞こえて
くるような、そんな楽しい場面が
ページをめくるたびに
きっと出逢えます。

絵本作者自ら森の中を歩き、取材して
紡ぎだした物語です。

森のくまさんと子どもたちの体験や
いろいろな出会いを通して、子どもたちの
命を育む森林の大切さや

思いやりの愛が

芽生えますように…



■ ダイードロリンコ(株)様の取組のご紹介

絵本「木が伝えてくれる物語」第8作目
『森のくまさん南信州へゆく』120冊をご購入いただき、
県内の信州こどもカフェに配付するために
長野県こども若者局へ寄贈されました。

まってるね



絵本作者 藤岡 牧夫 氏

「木が伝えてくれる物語」 絵本9作目

予告

森のくまさん第4弾！の取材開始しています…

森のくまさんと子どもたちは、
北アルプス地域を旅するストーリー

発刊予定は 令和4年12月末ごろ



北アルプス雪形を観る作者





ふるさとの森林づくり賞・木工工作コンクール

令和2年度、森林・林業の振興に貢献された個人や団体を、長野県との共催で表彰し、2部門2団体に長野県緑の基金理事長賞を贈呈しました。

また、木の文化を大切に作る心を育てるため、木工工作コンクールを長野県木材青壮年団体連合会と共催し、優秀作品を表彰しました。

なお、例年開催していました林業関係ポスター等コンクールは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止となりました。



長野県緑の基金理事長賞



■ ふるさとの森林づくり賞

森林づくり推進の部

受賞者名	所在地	功績内容
一般社団法人 塩尻市森林公社	塩尻市	県内市町村で初となる森林公社として、平成29年4月に設立され、森林の集約化や林業事業体の支援などの森林整備に向けた取組、森林・林業に対する意識の醸成を図るための体験学習の開催やプロモーションの推進、薪の普及促進等木質バイオマスの市民による活用促進など、市町村による推進体制の新たなモデルを示され、他の市町村の模範となる取組をすすめています。

森林環境教育推進の部

受賞者名	所在地	功績内容
ブッポウソウの里の会	上伊那郡 中川村	平成26年に発足して以降、絶滅危惧種であり長野県の天然記念物にも指定されているブッポウソウの保護活動をはじめ、巣箱製作や観察会、写真展の開催等の普及啓発活動を通じて、県内外に向けてブッポウソウの保護を呼びかけており、希少野生動物の保護活動に尽力をされています。発足する前の平成17年から、村民有志による巣箱の設置・補修などの繁殖補助、繁殖状況の調査活動等を継続して行っており、その知見を活かして平成30年には、リニア新幹線関連工事の影響について、県等に対して助言・要望活動を行っています。

■ 木工工作コンクール



「食事セット」 御代田町立御代田北小学校
内堀 世椰 さん



国土緑化運動・育樹運動標語



「森をもりもり！盛り上げよう！」

長野県林業大学校 岡本 春幸 さん

この標語は、県内応募作品61点の中から優秀作品として国土緑化推進機構に推薦され、審査の結果、全国345点から入選作品に選ばれました。



学校環境緑化モデル事業

この事業は、企業が集めた募金の国土緑化推進機構への寄附金を活用して実施するもので、学校環境の緑化（樹木の植樹、手入れ等）、環境教育フィールドの整備（ビオトープ等）の事業を行う小学校や特別支援学校等を対象に助成しています。令和2年度は3校で実施されました。

上田市立豊殿小学校



ふれあいの池ビオトープの改修を行いました。このビオトープは2016年に地域の方からのご寄附で造成され、近年漏水が激しく水が溜まらなくなっていたため、今回



防水シート再敷設などの改修工事を行いました。

県飯山養護学校



開校30周年の節目を迎え、その記念に校内樹木の手入れや植樹を行いました。生徒代表の挨拶では「僕たちが大人になったらこの樹がどのくらい大きくなるか見にきたいです。」という言葉がありました。



小谷村立小谷小学校



小谷の自然豊かな環境と、地域とのつながりを生かした学び場をつくろうと、従来の水路を延長して自然石で囲み新たな池を作ったビオトープとなりました。夏はホタルの名所として親しまれています。



県民総参加の森林づくり

令和3年度 ふるさとの森づくり県民の集い (第71回長野県植樹祭) を開催しました

令和2年度は栄村の「さかえ倶楽部スキー場」で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、延期となりました。今年度は同じ会場において、規模を縮小し主催者や共催者による植樹活動を中心に開催しました。

なお、例年午後に開催していました緑の基金主催の「森林教室」は、コロナ禍のため中止しました。

●大会テーマ

「受けつごう 命をくれる やさしい森」
(栄村立栄小学校 廣瀬 花代さんの作品)

6月4日
植樹活動▶



6月22日 記念標柱建立



ユーグループ様から「ふれあいグリーンキャンペーン」 で苗木の寄贈がありました

ユーグループ様から、県の緑化推進を図るため、「ふれあいグリーンキャンペーン」により昭和51年度以降毎年、花木等の苗木を県に寄贈していただいています。46回目となる令和3年度は、5月20日にユーグループ代表 宇都宮 進一様から県知事にレンゲツツジ等約1,200本の苗木が寄贈されました。寄贈いただいた苗木は第71回県植樹祭で植栽しました。



緑の募金事業



各地で展開される緑化活動

長野県緑の基金は、県民の皆さんによる森林整備、緑化等を推進するため「緑の募金地区交付金」を交付しています。各地域では緑の募金を活用し、さまざまな緑化活動を行っています。県内11地域で行われた事業の一部を紹介します。

佐 久

北相木村保育園において「きのこの植菌体験」を開催しました。コナラの原木にしいたけ駒を約500駒植菌しました。木槌で一生懸命に駒を打つ園児の姿が印象的でした。来秋にたくさんのしいたけが収穫できることを楽しみにしています。



上 小

上小林業振興会では、松くい虫被害で枯れた木から作ったチェンソーアートベンチを上小管内の保育園等に配布する活動を行っています。園庭に設置が終わると園児らが「ワー！」と一斉に集まってくる姿に感動です。



◀ 伐倒された枯損木



諏 訪

富士見町木之間区では、市町村緑化事業として、地域で管理する区有地へソヨゴの苗木を区民が協力して植栽しました。



上伊那

中川村の陣馬形山において、令和3年度上伊那郡市植樹祭を開催しました。雨中ではありましたが、コロナ対策を講じつつミズナラ、カエデを植栽し、防鹿柵も施工しました。



下伊那

南信州地域は乾しいたけの産地。上久堅みどりの少年団では、学校の敷地内で500駒の種駒を20本のコナラの原木に丁寧に打ち込みました。来秋きのこが出るのが楽しみです。



木 曽

王滝中学校の生徒、王滝村議会など30名で「クマ剥ぎ防止のテープ巻き」を実施しました。9年前から毎年行ってきましたが、令和4年度から木曽町中学校に編入されるため、最後の活動に皆感慨深く取り組みました。



松 本

朝日村立あさひ保育園の年長児37名が、保育園の庭に桜の苗木を植えました。苗木が元気に成長し、綺麗な花が沢山咲くよう願いながら、小さなシャベルで根元に丁寧に土をかけました。



大 北

大町市立八坂小学校みどりの少年団がしいたけ原木の駒打ちを行いました。また、分解者としてのキノコの役割や森林の働き等を学びました。

